

# 通信宝箱

平成20年

# 1月号

## 今月のHOTニュース

## 緊急地震速報開始!!

気象庁が2007年10月1日から一般向けに提供を開始した「緊急地震速報」をご存知ですか。

「緊急地震速報」は、地震が発生してから強い揺れが襲来するまでのごく短い時間を活用して、地震による被害を軽減しようとする情報です。自分のいる場所が強く揺れ始める前に、「もうじき揺れます」というお知らせがあれば、事前に身構えることで被害を減らすことができるというものです。

今回は、気象庁が平成19年9月4日～11日までの8日間に実施したアンケート調査（調査対象：全国の20歳～69歳男女・地域別人口構成比率で約2,000人）の結果を一部ご紹介します。

### ◆気象庁の「緊急地震速報」という情報を知っていますか。

内容	回答者数：2,001人
1.知っている	1,212人(61%)
2.正確な名前は覚えていないが、聞いたことがある	657人(32%)
3.知らない	132人(7%)

### ◆「緊急地震速報」はどのような内容の情報ですか。（上記設問で1と2の回答者のみ調査）

内容	回答者数：1,869人
■地震の初期微動を検知し、大きな揺れが来ることを直前に知らせる情報	937人(50%)※1
■地震が起きる前に、地震の発生を予知して知らせる情報	590人(32%)※2
■実際に観測した各地の震度を速やかに知らせる情報	199人(10%)
■各地の地震による被害の状況を速やかに知らせる情報	37人(2%)
■わからない	106人(6%)

※1 回答者総数2,001人のうち47%

※2 「地震が起きる前に、地震の発生を予知して知らせる情報」を選択された方（590人）のみに、地震が起きる前とはどのくらいの時間かを聞いたところ、約8割（496人）が「数秒から数十秒程度の時間」を選択し、情報の意味について正しく理解。（約2割（94人）は「数時間から数日程度の時間」を選択）

### ◆家庭で「緊急地震速報」を受け取った際に、どのように行動するのが一番良いと思いますか。

内容	回答者数：2,001人
■頭を保護し、丈夫な机の下などに隠れ、慌てて外へ飛び出さない	1,178人(59%)
■何はさておき火を消す努力をする	759人(38%)※3
■どんな状況であっても急いで建物の外に出る	64人(3%)

※3 「何はさておき火を消す努力をする」を選択された方（759人）のみに、火元から離れていても火を消すかどうか聞いたところ、半数近くの方（338人）が、「火元の近くでは火を消す」を選択し、情報を受け取った場合の行動を正しく理解。（421人が「火元から離れていても火を消す」を選択。）

## 緊急地震速報「利用の心得」

緊急地震速報は、情報を見聞きしてから地震の強い揺れが来るまでの時間が数秒から数十秒しかありません。その短い間に身を守るための行動を取る必要があります。

## 周囲の状況に応じてあわてずにまず身の安全を確保する

### ●行動の具体例●

#### ■屋内■

##### ◎家庭では

- \* 頭を保護し、丈夫な机の下などに隠れる。
- \* あわてて外に飛び出さない。
- \* 無理して火を消そうとしない。



##### ◎人がおおぜいいる施設では

- \* 施設の係員の指示に従う。
- \* 落ち着いて行動し、あわてて出口には走り出さない。

#### ■屋外■

##### ◎街中では

- \* ブロック塀の倒壊等に注意する。
- \* 看板や壊れたガラスの落下に注意する。
- \* 丈夫なビルのそばであれば、ビルの中に避難する。



##### ◎山やがけ付近では

- \* 落石やがけ崩れに注意する。

#### ■乗り物にのっているとき■

##### ◎自動車運転中は

- \* あわててスピードを落とさない。
- \* ハザードランプを点灯し、まわりの車に注意を促す。
- \* 急ブレーキはかけず緩やかに速度を落とす。
- \* 大きな揺れを感じたら、道路の左側に停止する。



##### ◎鉄道やバスなどに乗車中は

- \* つり革や手すりもしっかりつかまる。

##### ◎エレベーターでは

- \* 最寄りの階で停止させて、すぐに降りる。

出典：気象庁HP「緊急地震速報について」 <http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/EEW/kaisetsu/index.html>

地震保険のご加入はお済みですか。詳細は裏面取扱代理店までお問い合わせください。

# 交通安全のポイント

## 通信宝箱

あけましておめでとうございます。今年も交通ルールを守ったマナーのよい安全運転をお願いします。さて、冬期は路面の凍結や積雪など運転にとって悪条件が重なるときです。凍結路や積雪路は、ハンドルやブレーキのちょっとした操作ミスや、発進時やシフトダウン時の不適切な加減速によってもスリップするおそれがあります。また、ブレーキをかけても車がなかなか停止しないため、追突事故も起こしやすくなります。しかも、路面の凍結については、あまり雪が降らない地域でも起こりますから、降雪地域ではないからといって、決して油断はできません。そこで今回は、凍結路や積雪路などの冬道の安全走行についてまとめてみました。

### ■凍結しやすい場所を知っておく

積雪した道路や降雪中の道路が滑りやすいことはいうまでもありませんが、それよりもっと滑りやすいのが凍結路です。凍結路は積雪路と違って見分けにくいために発見が遅れがちです。そのためスリップ事故を起こしてから路面が凍結していたことに気づくというケースもよくあります。しかし、それでは手遅れです。したがって、冬道では路面の状態にも十分目を配り、凍結路面を早目に発見するよう努めることが大切ですが、そのためには凍結しやすい場所を知っておくことも重要なポイントとなります。特に凍結しやすいのは、次のような場所です。

- ・橋の下
- ・トンネルの出入口
- ・交差点の手前やカーブの手前などのブレーキをよく踏むところ
- ・切り通し（山や丘陵などの間を切り開いて通した道）
- ・山間部などの日陰になっているところ

上記に掲げた場所は、周囲に雪がない場合でも凍結しているおそれがありますから、路面の状態に十分注意して、速度を落として慎重に運転する必要があります。また、雨上がりの道路は、気温の下がる深夜から明け方にかけて、路面が凍結するおそれがありますから注意が必要です。

### ■速度を落とし車間距離を十分とる

凍結路や積雪路の安全走行の基本は、速度を落とし車間距離を十分とることです。高速道路の場合でも、積雪時や降雪時などには、走行速度が時速50キロなどに規制されますから、一般道路の場合にはそれよりもっと速度を落として走行する必要があります。また、急ハンドルや急ブレーキ、急発進や急加速などの「急」のつく運転は絶対に避けて、慎重な運転操作を行う必要があります。



### ■ブレーキングには細心の注意を払う

凍結路や積雪路で強くブレーキを踏むと、タイヤがロックしてしまいスリップを招くだけです。乾燥路と同じ感覚でブレーキングを行うのは非常に危険です。ブレーキはソフトに踏み、徐々に停止するようにします。また、交差点や「止まれ」の標識のある場所で安全に停止するためには、あらかじめ減速して進行し、余裕をもって停止できるようにしておく必要があります。

### ■吹雪などで視界が悪いときは無理をしない

降雪時には視界が悪くなりますが、特に高速道路などでは吹雪のために、ほとんど前方が見えなくなることがあります。そのようなときに無理をして先に行こうとするのは非常に危険ですから、サービスエリアやパーキングエリアなどの安全な場所に一時待機して、天候が回復し視界が確保できるまで待つようにします。また、降雪時に走行するときは、フロントガラスやサイドミラーに付着した雪で視界が妨げられることがありますから、ときどき車を安全な場所に止めて雪を払うようにします。

### ■チェーンを必ず装備しておく

冬期の走行では、夏用タイヤの場合はもちろんのこと、スタッドレスタイヤなどの冬用タイヤの場合でも、チェーンは必需品です。車の中に装備されているか、破損していないかなどを必ずチェックするとともに、いざというときにスムーズに取り付けられるように装着の仕方を練習しておくとういでしょう。また、「チェーン装着」の指示が出されたときや、対向車がチェーンを装着しているときなどは、早めに安全な場所に車を止めてチェーンを装着するようにします。



## 飲酒運転の撲滅を誓いましょう

飲酒運転は悪質・危険な行為であり、社会的犯罪です。飲酒運転を撲滅するために、年頭に当たって、ドライバーの皆さん一人ひとりが次のことを誓いましょう。

- ◆飲酒運転をしない。
- ◆飲酒運転の車には同乗しない。
- ◆飲酒運転を行うおそれがある人に酒をすすめたり車両を提供しない。
- ◆飲酒運転をしようとしている人がいたら制止する。